

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	2016 IPGSA meeting (第22回国際植物生長物質会議)
演題名	Jasmonoyl-L-isoleucine is required for the production of a flavonoid phytoalexin but not diterpenoid phytoalexins in ultraviolet-irradiated rice leaves
発表者	○ <u>Koji Miyamoto</u> , ※Isami Enda, ※Toshiki Okada, ※Yumiko Sato, ※Kohei Watanabe, <u>Tomoko Sakazawa</u> , <u>Emi Yumoto</u> , <u>Kyomi Shibata</u> , <u>Masashi Asahina</u> , <u>Moritoshi Iino</u> , <u>Takao Yokota</u> , <u>Kazunori Okada</u> , <u>Hisakazu Yamane</u> (植物化学研究室)
内容	<p>ファイトアレキシンは植物がストレスにตอบสนองして生産する抗菌性二次代謝産物である。イネのファイトアレキシンはフラボノイド型とジテルペン型に分類される。本論文は、イネにおいてジャスモノイルイソロイシンがフラボノイド型ファイトアレキシンのUV誘導的な生産には必須であるのに対し、ジテルペン型ファイトアレキシンのUV誘導的な生産には必須ではないことを示した。このことから、イネのUV誘導的ファイトアレキシン生産においてジャスモン酸要求性および非要求性の2つのシグナル伝達経路が関与することが示唆された。なお、本研究はバイオサイエンス学科植物化学研究室の卒研生が卒業論文研究として行ったものである。また、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」による支援を受けて行った。</p> <p>参考文献：Miyamoto et al., Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 印刷中 (http://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/09168451.2016.1189319)</p>
関連画像	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>学会が行われたトロント大学の様子</p>